

2026 年 10 月 23 日

日本下水サーベイランス協会と全国下水サーベイランス推進協議会は、赤羽一嘉衆議院議員・元国土交通大臣（公明党副代表）に対し、下水サーベイランスの社会実装の推進に向けての意見交換を実施しました。

令和 8 年 10 月 22 日（木）、日本下水サーベイランス協会と全国下水サーベイランス推進協議会は、「骨太の方針 2026」に下水サーベイランスの推進が明記されたことを受け、赤羽一嘉元国土交通大臣（公明党副代表）に対し、社会実装の推進に向けて以下の提案・意見交換を行いました。

- **事業の予算化：**「下水サーベイランス社会実装事業」の新規創設に 5.2 億円、設備費補助に 2.5 億円の予算化の必要性。
- **全国モニタリング網の構築：**全国の県庁所在地を中心に、47 都道府県で計 50 か所の観測拠点を決定・設置の必要性。

赤羽一嘉元国土交通大臣からは、感染症対策において下水サーベイランスは有効であり、国をあげて下水サーベイランスを推進する必要があることについて理解を示していただきました。

[要望先]：

- 赤羽一嘉 衆議院議員・元国土交通大臣、公明党副代表
- 塩田博昭 前公明党参議院議員

[訪問者]：

- 尾身茂 公益財団法人結核予防会理事長、  
一般社団法人日本下水サーベイランス協会特別顧問
- 広瀬栄 前兵庫県養父市長、全国下水サーベイランス推進協議会特別顧問
- 本多了 金沢大学教授、  
一般社団法人日本下水サーベイランス協会理事、  
全国下水サーベイランス推進協議会理事
- 小林博幸 一般社団法人日本下水サーベイランス協会副会長
- 谷戸善彦 一般社団法人日本下水サーベイランス協会副会長、  
全国下水サーベイランス推進協議会理事



(写真：左から広瀬氏、本多氏、尾身氏、赤羽一嘉元国土交通大臣、塩田博昭前参議院議員、谷戸氏、小林氏)